

英国のピークデистриクト国立公園に小旅行

先日、娘家族のホリデーに合流してイングランド北部の英国で最初に指定された香川県と同じ面積のピークデистриクト国立公園に行ってきました。平野部の多いイングランド地方ではめずらしい丘陵地帯の一つで最高地点は 636m、東京のスカイツリー並です。この国立公園には多くのリゾート地があり、私たちが滞在したのはタイデウエルと言う、小さな村で 16 世紀頃に建てられた石造りの建物が並んだ町並みは圧巻でした。日本の古い木造建築も趣がありますが、壁の厚さが 60cm もある石造りの建物もなかなかのもので冬の寒さも平気だろうなと思いました。この村は丘陵地から湧出する美味しい Buxton ブランドのミネラルウォーターが有名で、昔のままの水場で水が湧き出ていました。



国立公園内の谷間のビレッジ



羊や牛、馬の放牧があちこちで見れました



こんこんと湧き出る名水



村の中心部の商店街



私たちが滞在した古い石造り住宅（左の2軒目）

石造りの建物が並ぶ裏通り

タイデウエル村の車の見えない裏通りに入るとなにかタイムスリップした様な雰囲気、夜のとぼりが下りるところには家々の窓越しに見える電球色の薄暗い明かりはなんとも幻想的で都会の喧騒から逃れるにはもってこいの場所かもしれません。そのせいか、これらのリゾート地にはロンドンやマンチェスター等の大都会からのホリデーメーカー（観光客）が多いそうです。近くにはテーマパーク、クロスカントリーコース、サイクリングセンター等があり、様々な楽しみ方がありました。

特に興味深かったのが Trail（トレイル）と言われる廃線になった鉄道の跡地をサイクリストに解放している自転車専用道路でした。廃線になった線路をそのままにしておけば草ぼうぼうで荒地になるだけですが、線路を撤去し路盤をならし、鉄橋は土で固め欄干を設けトンネルには照明を付けるだけで、比較的 low コストで自転車専用道路を造ることができる訳です。廃線の鉄道路線の再利用方法として極めて理にかなった方法だと思います。

私たちが行った所は 1862 年に開業、1968 年に廃線となったマンチェスター・ダービー線跡地の旧ハソップ駅の駅舎を利用したサイクリングセンターでした。ショップ、カフェ、レンタル自転車に修理施設もありました。なにしろ約 30km の線路跡が自転車と歩行者天国で自分の自転車を持ち込んでもよし、レンタルするもよし、コース脇でのピクニックと家族全員で楽しめる場所でした。



1962 年頃のハソップ駅 SL(Web より)



旧ハソップ駅舎と自転車・歩行者専用道路



自転車と歩行者専用道路になった線路跡



こんな珍しい連結自転車を見ました

今では、Trail と言えば、自転車専用道路を指し北イングランドのヨークシャー地方だけでもガイドブックによると3ヶ所ありますので、全国ではきっと10ヶ所以上はあると思われます。日本の廃線になった跡地はどうなっているのか判りませんが、Trail へ転換し観光客を呼び込むのも地方再生の一つの方法かもしれませんね。(了)